

## 【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

### 公債金を返すために

串間市立串間中学校

三年 隈田原 心桜

今、話題となっている増税や値上げ。朝、毎日のように値上げのニュースが流れています。岸田総理は増税メガネとも呼ばれています。私はどうして増税や値上げをするんだろうと疑問に思っていました。

そんなある日、授業で租税教室が行われました。そこで私は、税金の大切さを知りました。警察や消防、救急車、学費や学校の物など身の周りのたくさんの物は税金により補われています。もし、税金がなくなると、今までどりの生活はおくれくなります。私たちの生活には税金がとても関わっています。

社会の公民の授業で、公債についてを学習しました。国は政府の租税収入だけで必要な収入がまかなえないとき、公債を発行します。公債は、いわゆる借金です。だから返さなければなりません。公債金の増加は、高齢化によって、社会保障関係費が増加傾向にあり、税金だけではまかなえないため高い水準にあります。そのため、国債残高は増える傾向にあります。

今のこのような状況では、増税をするしかありません。私も増税はいやです。しかし、借金である公債金は返さなければいけません。増税は負担がとても大きいです。

そこで、私は増税以外の方法を考えてみました。公債金の割合が高い水準にある理由の一つとして、少子高齢化があげられています。その対策の一例として、ブルガリアの独身税です。ブルガリアでは、独身者の収入に対して五から十パーセントの税をとっていました。私にはこれにより、少しは少子高齢化がおさまるのではないかと思っています。しかし、ブルガリアでは、少子高齢化がおさまるところか合計特殊出生率は低下しています。

このようは結果では、独身税により、本当に少子高齢化がおさまり、公債金を返すことができるか分かりません。公債金を返さないと、将来世代の負担が大きくなります。政府の方は、今だけでなく、先のことも考えて、国債の発行を行っています。

私たちも、今だけでなく、先のことを考えるという視点が大切だと思います。また、私たちに一番必要なことは、税金のおかげで、今の生活があるということに感謝すること、今の、そしてこれからの状況を知ることです。